

ものづくり技術

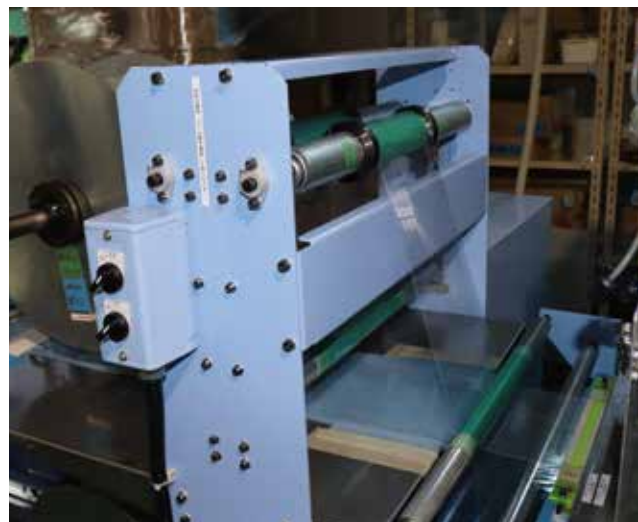
一般型

株式会社大阪クリップ

自動機導入による名札表示面・カードケースの 品質向上および国内での生産体制の構築



機械の導入で生産性向上や短納期が実現した



シートとシートを重ね合わせ溶着する



グリーン購入法に認定され、継続した受注が見込める



新商品開発にも積極的な姿勢

会社概要

会社名 株式会社大阪クリップ
代表者 代表取締役社長 佐々木康道
所在地 〒879-5413 大分県由布市庄内町大龍1307(大分庄内工場)
TEL 097-582-0333 FAX 097-582-1151
E-mail syounai@clip-s.co.jp
URL <http://www.clip-s.co.jp>
事業内容 文具の製造販売
資本金 3900万円
設立 昭和26年10月
社員数 200名



庄内工場長
熊谷 英生



事業計画概要

高周波ウェルダーカードケース用自動機を生産ラインに導入して原材料ロスの低下や品質向上を目指す。生産体制を中国から国内に変更。短納期の実現に取り組むことで営業力を強化し受注増に対応する。

背景・経緯

大量注文に対応する生産体制の構築と短納期の確立

大阪クリップは事務用クリップの製造販売を手がける事業者。コンパスや箱入れ、書類入れなど児童からオフィス向けまで対応する文具メーカーだ。常に革新的な製品開発を続けヒット商品も多数。近年は自立するペンケースを販売、スマートフォンを収納できる設計が話題を呼び予想以上の売れ行きとなった。

本社は大阪だが、大分県の企業誘致に応える形で進出。昭和48年に大分県竹田市に萩工場を設立。平成2年に同由布市に庄内工場を建設した。庄内工場はゼムクリップや海外輸出もするコンパスなど500品番を超える商品を製造する主要拠点となっている。国内の人手不足や人件費の問題から中国・天津市にも進出している。

ものづくり補助金を活用して庄内工場に導入したのが、高周波ウェルダーカードケース用自動機。名札を入れるケースに用いるシートとシートを重ねて溶着する装置だ。導入を検討したのは販売枚数が年々増加したことにある。背景にあるのは約10年前から大手通販会社と取引を開始したこと。大阪クリップの企業認知度が高まるのに比例して、通販やネット販売の取引量が増加した。

多様なニーズに応えるためには、大量注文に対応できる生産体制の構築と品切れを起こさない短納期の確立が欠かせなかった。

事業内容

フィルム破損なく、設定通りに加工

生産体制の再構築による生産量増を目指し、庄内工場にシートを溶着する高周波ウェルダーカードケース用自動機を導入した。フィルムが破損することなく、設定した寸法通りに加工できる。溶着精度が低くなりそうな場合、自動補正する機能がある。

成果

生産数量6倍に高まり、人数は減少

生産数量や納期、低コスト化など複数の観点で収穫を得た。機械導入時は1時間当たり1400枚を製造できれば元が取れると計算していた。実際に稼働すると予想を超える1時間あたり2000枚を生産でき、1日最大1万8000枚を製造できた。これは手作業時代に比べて約6倍の数値となる。

納期も75日が15日と以前の5分の1まで短くできた。これは輸送時間が大きく関係する。以前は中国から検品のため大分工場に製品を輸出していたが、国内工場で一貫生産ができるので時間のロスがなくなった。短納期は営業展開する上でも強みとなり、業績は堅調に推移。29年9月期の会社全体の売り上げは約30億円に達した。

導入した機械は自動補正機能を持ち、溶着具合が悪いと判断すれば自動で修正する。手作業はどうしても時間経過とともに集中力が欠如しミスも増える。原材料や人件費、検品運賃など全体でみれば、経費は6・4%減と低コストを実現した。

展望

優位性を生かし、受注増加を見込む

同社の名札カードケースの多くは環境負荷低減に資する製品・サービスとして国からグリーン購入法に認定されている。環境対応商品の優位性を生かし、官庁などから引き続き受注増加を見込める。

高い品質の商品を以前の5分の1以下の短納期で生産できることから営業のチャンスが広がる。溶着作業の後工程に該当するフィルムの切断まで自動化できないかを現場で練っている。

まとめ 生産性や品質、納期で軒並み成果。

営業力強化でさらなる受注増を目指す。